

(様式1) 実践事例

学校名	伊達市立上保原小学校	校長名	内藤 百合子		
住所	伊達市保原町上保原字無苦代内11	児童生徒数	212名	学級数	13
TEL	024-576-2319	ホームページアドレス	www.schoolweb.ne.jp/date/kamihobara-e/		

学ぶ意欲をもって主体的に学習する子どもをはぐくむ

～習熟度別指導を通して～

1 少人数指導の計画等

- (1) 少人数指導を通して、一人一人の学びの特性や習熟の程度に応じた学習活動、学習形態を工夫し、主体的に学習に取り組む児童の育成を図る。
- (2) 補充的な学習や発展的な学習を組み込みながら、基礎学力の定着や活用力等の向上を図るとともに、習熟の違いに配慮した指導を行う。
- (3) 友達の考えを「受け止めて聞く」指導に重点を置くとともに、互いの考えを認め合う学習活動を通して、学び合う学級集団をはぐくむ。

2 実践の概要(第6学年 36名)

(1) 習熟度に応じた学習指導

習熟度別指導の効果が期待される単元において、2学級を3つの学習集団に分けて実施した。コースの決定にあたっては、児童の意向を尊重しながら担任と相談の上児童自身に決定させた。

- (コース)
- ライオンコース(発展的・応用的な学習につなげるコース)
 - チーターコース(自力解決を促し、確かな学力の定着を図るコース)
 - プーマコース(基礎・基本の定着を図るコース)

(2) 実践事例

6年「速さの表し方を考えよう」

【問題】

A, B 2つのプリンターがあります。縦が89mm, 横が127mmのカラー写真をAのプリンターは1時間で90枚, Bのプリンターは12分で20枚印刷できます。速く印刷できるのは、どちらのプリンターですか。

① ライオンコース



作業する速さを比べる学習において、自力解決できると考えられる学習集団である。解決方法を1つではなく複数考えさせるとともに、友達の立てた式の意味や自分の考え等を相手に分かりやすく説明する力を高めることをねらいとした。

指導にあたっては、まず作業の速さを枚数と時間の2量でとらえることを確認し、解決の見通しをもたせた。ペアでの話し合いは、はじめに隣の席の児童どうしで、次に、席を離れて自由に交流させることで、多様な考え方があることに気づかせた。その際、学校全体で活用している「聞き方あいうえお」カードを提示し、自分の解決の仕方と比べながら聞くように指示した。全体で説明し合う場では、式だけを書かせ、互いの式の意味を説明し合う場を設定した。

② チーターコース



既習事項の確認をすることで、自力解決ができると考えられる児童集団である。見通しを立てる場面に個別指導を取り入れ、自力解決につなげることをねらいとした。

指導にあたっては、見通しを立てる段階で、既習事項を確認し、時間の単位をそろえることや公倍数を使うとよいこと等の考えを引き出した。自力解決の場面ではつまずきの見られる児童に、分かっていることを確認し既習事項の何をどのように活用すればよいのかを机間指導した。

③ プーマコース



自力解決が困難な児童集団であるため、立式に必要な数値を除いた問題文を提示した。正しく公式を使って計算できることをねらいとした。また、児童が自信をもって学習に取り組むことができる場づくりにも配慮した。

指導にあたっては、課題をつかむ段階で、暗算で解決できる簡単な問題から入り、解決できそうだという自信をもたせた。その考えをもとに立式することで、どの児童も納得して意欲的に学習に取り組むことができた。式は立てられたものの実際の計算でつまずく児童には、空位がある場合の除法の筆算等を個別指導したことで安心して学習を進めることができた。

3 実践の成果と課題

- 指導にあたって、一人一人の実態や学びの特性を意識しながら教材研究を進めたことで、児童の学ぶ意欲とねらいとする学力が高まった。
- 学習能力等が等質集団であるため、互いの考え方や発表に共感し、よさを認め合いながら、学び合おうとする意識を高めることができた。
- チーターコースは、児童の学習能力等の幅が広く、一人一人の特性に対応した支援が難しい。ヒントカードやヒントコーナー等の工夫が必要である。
- 自力解決し互いの考えを説明する時間と、それをもとに定着を図る時間とのバランス等を単元全体の構想の中で見通しをもって改善していく必要がある。